

事例項目	01 障害の特性理解・実態把握 02 個に関する指導
概要	授業の内容が分からなくなるとイライラしたりふてくされたりして、その気持ちの切り替えができず引きずってしまう生徒への対応
事例提供校	高校： 西部地区 全日制 特支： 浜名特別支援学校

事例の内容	高校からのリクエスト
	<ul style="list-style-type: none"> ・板書を写すことが困難で、イライラしてしまい、余計に分からなくなる。教師が指摘するとふてくされてしまう。ふてくされると気持ちの切り替えができず、引きずってしまう。 ・教師の質問の内容や意図が伝わらず、ちぐはぐな会話になることがある。そのことを友達が指摘しても反応がない。 <p>このような生徒にどのように関わっていけばよいか。</p>
	特別支援学校からの支援・助言（センター的機能の活用）

	<ul style="list-style-type: none"> ・電話による相談 高校訪問 ・訪問時に高校での特別支援教育に関する体制や教員の意識について管理職、特別支援教育コーディネーターと情報共有
--	---

センター的機能を活用した感想	高校 担当者のコメント
	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、授業見学に来て、担任からの相談に乗ってもらいたいと思います。 ・発達障害なのかどうかを判断するための情報提供や行動の見立てについての助言が欲しいです。
	特別支援学校 担当者のコメント

	<p>生徒の行動の見立てとして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の理解や表出面でつまずき(苦手意識)があるかもしれません。 ・これまでの経験から、友達から指摘されていることに気付かないふりをして、嫌な気持ちになることを避けているのかもしれません。 ・教師からの関わりに対してふてくされるというリアクションは、教師に関わりを求めていると考えます。 ・板書を写すのが苦手だったり、質問に適切に応えられなかったりなど上手くできないことを自分で分かっているが、その感情を適切な言葉などで表に出せずにいるのかもしれません。 <p>関わり方として伝えたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校での様子を情報提供してもらい、他の先生方と情報を共有するとよいと思います。 ・生徒が「ヘルプ」を出せるように「困っているところがないですか?」「分からなかったところがありますか?」などさりげなく言葉をかける等、分からないこと、困っていることを言ってもいいんだということを生徒が感じられるようにするとよいと思います。
--	---

まとめ
特別支援教育を難しく考えることなく、すぐにできることを他の先生方と連携、協力して生徒に関わっていくことが大切だと考えます。

※具体的な支援内容については、当該校にお問い合わせください。